

タイ地質学会訪問

国際交流担当理事 Simon Wallis (東京大学)

日本地質学会とタイ地質学会の協定を見直して更新するために、3月末タイを訪問しました。約6時間のフライトの後、バンコクのSuvarnabhumi International Airportに着きました。空港にはNuchit Sirithongkham氏がお迎えに来てくださって、2010年に開通した快適なSky train 経由でスムーズにホテルまで移動しました。夜はレストランで本場のキックボクシングをテレビで観戦しながら本場の激辛のタイ料理を満喫しました。次の日Sirithongkham氏に政府機関であるDepartment of Mineral Resources (DMR: 鉱物資源局)と附属岩石鉱物博物館を案内してもらいましたが、博物館ではタイで発掘された恐竜の化石が大きく取り上げられていました。アジアでは恐竜の産地として中国・モンゴルが有名ですが、タイも重要な恐竜産地ということを知りました。

DMRは1891年にRoyal Department of Mines and Geologyとして発足し、128年の非常に長い歴史を持つ組織です。錫やカリ (potash) などの鉱物資源の開発・採取を担当してきました。様々な組織変更を経て、現在のDMRは鉱物 (石油・天然ガスを除く)と地質調査、そして自然災害 (geohazards)と古生物を担当しています。世界の同様な組織をと比べ、「古生物」は「資源」と「自然災害」に並ぶ1つの独立した部署になっていることは珍しく、化石の注目度の高さを物語っている印象を受けました。一方、タイ地質学会は1967年、DMR・大学・民間で働く地質学者のつながりと分野の強化をはかる目的で設立されました。タイ地質学会はDMRと別組織ですが、初代会長を務めたVicha Sethabutra氏はDMRのDirector Generalも務めるなど両者の幹部が深く関わっている歴史があります。訪問中、参加したタイ地質学会とDMR共同主催のシンポジウムもその協力関係を示すものでした。シンポジウムのテーマは、計画さ



タイ地質学会のTechawan会長からタイ地質学会特注のポロシャツをもらうWallis理事。

れている新しいタイ語の地質辞典の内容や、これから導入される国が認定する地質学者の資格に関する議論でした。発表と議論はタイ語でしたが、隣に座っていたタイ地質学会会長兼DMR Director Generalを務めるSommai Techawan氏からの説明やスライドの一部が英語で書かれていることで助かりました。シンポジウムの参加者人数は100人弱で、なかなか雰囲気の中で活発な議論ができた好印象を持ちました。

その後、大学生によるアウトリーチ活動に関するポスター発表があり、学生と接する機会もありました。

昼食の後、1時間ほどの時間でタイ地質学会の幹部と会合し、今後の日本地質学会との交流と協定の更新について議論しました。会長は協定の更新に前向きで学会で確認した上で、サインするという意向でしたので、近いうちに更新できる見込みです (後日、協定は問題なく更新されました)。また、定期的な情報交換や若手研究者交流を推進する活動の重要性についても合意しました。

夜はカラオケつきの飲み会でしたが、二次会ではタイ地質学会の会長を務めたことがあるNares Sattayarak氏と一緒にになりました。同氏は石油と天然ガスが専門ですが、元々堆積岩が主体のタイ東北部地方での図幅を担当していたそうです。その際に発見した化石をフランス人研究者に紹介し、国際的に脚光をあびる研究成果まで発展しました。新種の恐竜発見に大きく貢献したSattayarak氏の名前が、Psittacosaurus sattayarakiiとして化石の種名につけてもらい、郵便の切手のデザインにも選ばれたという面白いエピソードを聞きました。現在、バンコクだけではなく、タイ東北部にも古生物が主役の博物館 (恐竜化石産地を訪問された王女の名を冠したシリントーン博物館)などの施設が複数運営されており、日本の福井県立恐竜博物館など海外の組織との交流も盛んです。タイ料理や寺院の文化財、南部に広がるビーチに、恐竜化石も、最近のタイの観光に有意義に貢献する力を発揮しつつあることを実感できました。

短い滞在でしたが、タイの地質について多く学び、タイの地質学会のことも知り、有意義な時間を過ごすことができました。温かく受け入れて下さったTechawan会長とSirithongkham氏に感謝します。

本稿について安藤寿男理事 (茨城大) より貴重な意見を頂きました。謝意を表します。



タイ地質学会との学術交流協定書。協定は問題なく、4月10日の日付で更新しました。